

みずほマーケット・トピック(2014 年 11 月 21 日)

週末版

内容 1. 為替相場の動向

2. 来週の注目材料

※誠に恐れ入りますが「本日のトピック」はお休みさせていただきます。

1. 為替相場の動向(関連レポート:「みずほ BK Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)

- ・今週のドル/円相場は続伸する展開。週初 17 日に 116 円台後半でオープンしたドル/円は、注目されていた本邦 7~9 月期 GDP(1 次速報)が予想外のマイナスとなると消費増税延期との見方から 117 円を突破。しかし、景気悪化を嫌気して日経平均株価が大幅安となったことからドル/円は急反落し、一時週安値となる 115.45 円まで値を下げた。その後は 116 円台半ばまでじりじりと値を戻し、18 日は安倍首相が消費増税の 1 年半延期と衆議院を解散する方針を表明し 117 円台に乗せるも、事前に報道されていた経済対策のための補正予算案の詳細に言及はなく、利益確定の売りから 116 円台前半まで反落する展開。19 日は安倍政権の経済対策への期待などからドル/円はじり高となる中、FOMC 議事要旨においてインフレ期待低下の兆候に警戒すべきとの見解が示され売りで反応するも、海外経済減速の影響は限定的との内容が意識されるとドル買いが強まり、ドル/円は 118 円を突破した。20 日には一時週高値となる 118.98 円まで上昇するも、119 円手前では利益確定の売りに押されて 118 円割れまで反落し、本日にかけて 118 円近辺で揉み合っている。
- ・今週のユーロ/ドル相場は底堅い展開。週初 17 日に 1.25 台前半でオープンしたユーロ/ドルは、ドル/円の下落に連れて 1.25 台後半まで上昇するも、メルシュ ECB 理事とドラギ ECB 総裁が相次いで国債購入の可能性に言及すると 1.24 台半ば近辺まで一段安となった。18 日に一時週安値となる 1.2442 をつけるも、独 11 月 ZEW 期待指数が予想を大きく上回るとユーロ/ドルは 1.25 台前半まで反発。19 日にはクノット ECB 理事が量的緩和の効果に懐疑的な見方を示すと 1.25 台後半まで上値を伸ばし、FOMC 議事要旨を受けたドル売りに一時週高値となる 1.2602 をつけたが、その後はドル買いが強まる流れにユーロ/ドルは 1.25 台半ば近辺まで弱含み。20 日は独 11 月製造業 PMI(速報)の下振れに 1.25 近辺まで下落した後は米経済指標の結果に振られ、本日にかけて 1.25 台前半を中心に揉み合っている。

今週のおもな金融市場動向(出所:ブルームバーグ、みずほ銀行)

		前週末	今 週				
		11/14(Fri)	11/17(Mon)	11/18(Tue)	11/19(Wed)	11/20(Thu)	
ドル/円	東京9:00	115.81	116.87	116.63	116.87	118.13	
	High	116.83	117.06	117.06	118.09	118.98	
	Low	115.72	115.45	116.33	116.81	117.74	
	NY 17:00	116.25	116.65	116.85	117.98	118.20	
ユーロ/ドル	東京9:00	1.2472	1.2522	1.2451	1.2532	1.2540	
	High	1.2546	1.2580	1.2545	1.2602	1.2575	
	Low	1.2398	1.2445	1.2442	1.2513	1.2505	
	NY 17:00	1.2522	1.2450	1.2536	1.2555	1.2539	
ユーロ/円	東京9:00	144.48	146.29	145.20	146.45	148.15	
	High	145.84	146.53	146.69	148.10	149.12	
	Low	144.32	144.81	145.20	146.39	147.90	
	NY 17:00	145.65	145.18	146.48	148.10	148.27	
日経平均株価		14,778.37	15,130.52	15,161.31	15,213.63	15,314.57	
TOPIX		1,228.26	1,252.51	1,257.69	1,262.13	1,270.50	
NYダウ工業株30種平均		16,553.93	16,569.98	16,560.54	16,651.80	16,713.58	
NASDAQ		4,370.90	4,401.33	4,389.25	4,434.13	4,453.00	
日本10年債		0.505%	0.517%	0.514%	0.515%	0.506%	
米国10年債		2.420%	2.428%	2.449%	2.417%	2.402%	
原油価格(WTI)		97.65	98.08	97.37	97.59	95.58	
金(NY)		1,311.00	1,310.50	1,310.60	1,314.50	1,315.70	

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



2. 来週の注目材料

- 来週、米国では 25 日(火)に 7～9 月期 GDP(2 次速報)が発表される。1 次速報では前期比年率+3.5%と予想以上の伸びとなったものの、1 次速報後に発表された 9 月貿易統計において貿易赤字額が経済分析局(BEA)の想定を大幅に上回る結果となった。2 次速報では純輸出の寄与度が引き下げられる見込みであることなどから、市場では前期比年率+3.3%と下方修正が予測されている。また、翌 26 日(水)には 10 月新築住宅販売が発表される。新築住宅販売(戸建)は 8 月に前月比+18.0%の年率 50.4 万件まで急増したが下方修正され、9 月は同+0.2%の年率 46.7 万件となった。関連統計では、住宅建設業協会(NAHB)住宅市場指数は 9 月まで 5 か月連続で上昇したあとに 10 月は一旦低下し、住宅ローン申請件数(購入分)は引き続き軟調な状況が継続している。同統計はサンプル数の制約からノイズが大きいとの指摘は多く、10 月は前月比+0.6%の年率 47.0 万件と小幅な上昇が予想されているが、新築住宅販売の動向に楽観はできない。そのほかには、25 日(水)に 11 月消費者信頼感指数の発表があるほか、26 日(水)に 10 月耐久財受注、10 月中古住宅販売仮契約指数、11 月シカゴ PMI の発表などが予定されている。
- 本邦では、28 日(金)に 10 月鉱工業生産が発表となる。9 月の生産は前月比+2.9%と 2 か月ぶりに増加した。夏場まで耐久消費財を中心に在庫調整で減少が続いていたが、ようやく下げ止まってきたようである。しかしながら、10、11 月分の製造工業生産予測指数はそれぞれ同▲0.1%、同+1.0%となっており、企業の見通しは慎重だ。実質賃金の大幅な悪化を背景に個人消費の回復は鈍く、外需も中国経済やユーロ圏経済の低調な動きをみると強気の見通しを描くには難しい情勢である(市場予想の中心:前月比▲0.5%)。

	本 邦	海 外
11 月 21 日(金)		
24 日(月)	勤労感謝の日	・米 10 月シカゴ連銀全米活動指数
25 日(火)	・10 月企業向けサービス価格 ・日銀金融政策決定会合議事要旨	・9 月 FHFA 住宅価格指数 ・9 月 S&P/ケース・シラー住宅価格指数 ・11 月消費者信頼感指数 ・7～9 月期 GDP(2 次速報)
26 日(水)		・10 月新築住宅販売件数 ・10 月耐久財受注 ・11 月シカゴ PMI ・10 月中古住宅仮契約指数
27 日(木)		サンクスギビングデー
28 日(金)	・10 月労働力調査 ・10 月家計調査 ・10 月全国消費者物価指数 ・11 月東京都都区部消費者物価指数 ・11 月商業販売統計 ・11 月鉱工業生産(速報) ・10 月新設住宅着工件数	

【当面の主要行事日程(2014 年 11 月～)】

日銀金融政策決定会合 12 月 18～19 日、2015 年 1 月 20～21 日、2 月 17～18 日)

欧州中銀理事会(12 月 4 日、2015 年 1 月 22 日、3 月 5 日)

米 FOMC(12 月 16～17 日、2015 年 1 月 27～28 日、3 月 17～18 日)

以 上

国際為替部

マーケット・エコノミスト

深谷 公勝(TEL:03-3242-7065)

masakatsu.fukaya@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。

経済指標カレンダー(2014年11月)

月	火	水	木	金	週末
3 日本 文化の日 米国 ISM製造業景気指数(10月) 米国 建設支出(9月)	4 日本 自動車販売台数(10月) 米国 貿易収支(9月) 米国 製造業新規受注(9月)	5 日本 マネタリーベース(10月) 日本 毎月勤労統計(9月) 米国 ISM非製造業景気指数(10月) 米国 ADP雇用統計(10月) ユーロ圏 小売売上高(9月)	6 日本 景気動向指数(速報、9月) 日本 日銀金融政策決定会合議事要旨 米国 労働生産性(速報、7～9月期) ユーロ圏 ECB理事会 ドイツ 製造業受注(9月)	7 米国 雇用統計(10月) 米国 消費者信用残高(9月) ドイツ 鉱工業生産(9月) ドイツ 貿易収支(9月)	8
10	11 日本 国際収支(9月) 日本 貸出・預金動向(10月) 日本 景気ウォッチャー調査(10月) 日本 消費者態度指数(10月) 日本 企業倒産件数(10月)	12 日本 第三次産業活動指数(9月) 日本 マネーストック(10月) 米国 卸売売上高・在庫(9月) ユーロ圏 鉱工業生産(9月)	13 日本 企業物価指数(10月) 日本 機械受注(9月) 日本 鉱工業生産(確報、9月) 米国 財政収支(10月) ドイツ 消費者物価指数(確報、10月)	14 米国 小売売上高(10月) 米国 企業在庫(9月) 米国 ミシガン大学消費者マインド(速報、11月) ユーロ圏 消費者物価指数(確報、10月) ユーロ圏 GDP(1次速報、7～9月期) ドイツ GDP(1次速報、7～9月期)	G20 首脳会議(ブリスベン)
17 日本 GDP(1次速報、7～9月期) 米国 ニューヨーク連銀製造業景気指数(11月) 米国 鉱工業生産(10月) ユーロ圏 貿易収支(9月)	18 日本 日銀金融政策決定会合(～19日) 米国 生産者物価指数(10月) 米国 TICレポート(対内対外証券投資、9月) ドイツ ZEW景況指数(11月)	19 日本 景気動向指数(確報、9月) 米国 住宅着工/建設許可件数(10月) 米国 FOMC議事要旨 ユーロ圏 ユーロ圏経常収支(9月)	20 日本 貿易収支(10月) 米国 消費者物価指数(10月) 米国 中古住宅販売件数(10月) 米国 景気先行指数(10月) 米国 フィラデルフィア連銀景気指数(11月)	21	
24 米国 シカゴ連銀全米活動指数(10月) ドイツ IFO企業景況感指数(11月)	25 日本 企業向けサービス価格(10月) 日本 日銀金融政策決定会合議事録要旨 米国 FHFA住宅価格指数(9月) 米国 S&P/ケース・シラー住宅価格指数(9月) 米国 消費者信頼感指数(11月) 米国 GDP(2次速報、7～9月期) ドイツ GDP(2次速報、7～9月期)	26 米国 個人所得・消費支出(10月) 米国 ミシガン大学消費者マインド(確報、11月) 米国 新築住宅販売件数(10月) 米国 耐久財受注(10月) 米国 シカゴPMI(11月) 米国 中古住宅仮契約指数(10月)	27 ユーロ圏 マネーサプライ(10月) ドイツ 消費者物価指数(速報、11月)	28 日本 労働力調査(10月) 日本 家計調査(10月) 日本 全国消費者物価指数(10月) 日本 東京都都区消費者物価指数(11月) 日本 商業販売統計(10月) 日本 鉱工業生産(速報、10月) 日本 新設住宅着工件数(10月) ユーロ圏 失業率(10月) ユーロ圏 消費者物価指数(速報、11月)	

(注)*を付したものは公表予定が未定であることを示す。

経済指標カレンダー(2014年12月)

月	火	水	木	金	週末
1 日本 自動車販売台数(11月) 米国 ISM製造業景気指数(11月)	2 日本 マネタリーベース(11月) 米国 建設支出(10月)	3 米国 ISM非製造業景気指数(11月) 米国 労働生産性(確報、7～9月期) ユーロ圏 GDP(2次速報、7～9月期)	4 ユーロ圏 ECB理事会	5 日本 景気動向指数(速報、10月) 米国 雇用統計(11月) 米国 製造業新規受注(10月) 米国 貿易収支(10月) 米国 消費者信用残高(10月) ドイツ 製造業受注(10月)	
8 日本 国際収支(10月) 日本 貸出・預金動向(11月) 日本 *企業倒産件数(11月) 日本 景気ウォッチャー調査(11月) 日本 GDP(2次確報、7～9月期) ドイツ 鉱工業生産(10月)	9 日本 マネースtock(11月) 米国 卸売売上高(10月) ドイツ 貿易収支(10月)	10 日本 企業物価(11月) 米国 財政収支(11月)	11 日本 第三次産業活動指数(10月) 日本 機械受注(10月) 米国 小売売上高(11月) 米国 企業在庫(10月)	12 日本 鉱工業生産(確報、10月) 米国 ミシガン大学消費者マインド(速報、12月) 米国 生産者物価(11月) ユーロ圏 鉱工業生産(10月)	
15 米国 ニューヨーク連銀製造業景気指数(12月) 米国 TICレポート(対内外証券投資、10月) 米国 鉱工業生産(11月)	16 米国 住宅着工(11月) 米国 FOMC(～17日) ユーロ圏 貿易収支(10月) ドイツ ZEW景況指数(12月)	17 日本 貿易収支(11月) 米国 消費者物価(11月) ユーロ圏 消費者物価(確報、11月)	18 日本 日銀金融政策決定会合(～19日) 米国 フィラデルフィア連銀景気指数(12月) 米国 景気先行指数(11月) ドイツ IFO企業景況感指数(12月)	19 日本 景気動向指数(確報、10月) ユーロ圏 ECBユーロ圏経常収支(10月)	
22 日本 金融経済月報 米国 中古住宅販売(11月)	23 米国 個人所得・消費(11月) 米国 ミシガン大学消費者マインド(確報、12月) 米国 新築住宅販売(11月) 米国 耐久財受注(11月) 米国 GDP(3次速報、7～9月期)	24	25 日本 企業向けサービス価格(11月) 日本 新設住宅着工(11月) 日本 日銀金融政策決定会合議事録要旨	26 日本 労働力調査(11月) 日本 家計調査(11月) 日本 全国消費者物価(11月) 日本 東京都都区消費者物価(12月) 日本 商業販売統計(11月) 日本 鉱工業生産(速報、11月)	
29	30 米国 S&P/ケース・シラー住宅価格(10月) 米国 消費者信頼感指数(12月)	31 米国 シカゴPMI(12月)			

(注)*を付したものは公表予定が未定であることを示す。

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です
<http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ.html>

発行年月日	過去6か月のタイトル
2014年11月20日	豪ドル資産の軟調が目立つ
2014年11月18日	過去の円安局面と違う2つの要素～実質金利と需給～
2014年11月17日	本邦7～9月期GDP～続く所得面の悪化～
2014年11月14日	週末版(2周年を迎えたアベノミクス～何が変わったのか～)
2014年11月11日	本邦9月国際収支統計などについて
2014年11月10日	【特別版】『中期為替相場見通し』の臨時改訂
2014年11月7日	週末版(ECB理事会を終えて～正式に始まった「量」への挑戦～)
2014年11月6日	当面は温存されそうな実現不可能なポリシーミックス
2014年11月5日	ECB理事会プレビュー～現状維持を予想～
2014年11月4日	日銀金融政策決定会合(10月31日開催分)
2014年10月31日	週末版
2014年10月30日	FOMC声明文を受けて(10月28～29日開催分)
2014年10月28日	カバードボンド購入額をどう読むか?
2014年10月27日	欧州ストレステストを受けて～本邦の勝負はこれから～
2014年10月24日	週末版(ユーロ圏PMIや域内のスラック(弛み)について～インフレ率が上がらない構造的背景～)
2014年10月23日	ECB社債購入を巡る3つの問題点
2014年10月22日	現時点の消費増税に対する市場の反応イメージについて
2014年10月21日	カバードボンド購入プログラム(CBPP3)などについて
2014年10月20日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2014年9月分)
2014年10月17日	週末版(米為替政策報告書について～ドル高容認か?～)
2014年10月16日	昨日の相場混乱について～ドル/円は適正な水準まで調整へ～
2014年10月15日	原油価格下落が日米欧金融政策に与える影響
2014年10月14日	G20を終えて～円とユーロで全く違う「通貨安の正当性」～
2014年10月10日	週末版(ドル/円相場の新しい節目～均衡水準は20%円安に?～)
2014年10月9日	FOMC議事要旨(9月16～17日開催分)を受けて
2014年10月8日	日銀金融政策決定会合を終えて～迫る期限の弾力化～
2014年10月7日	経済財政諮問会議(10/1)議事要旨を受けて
2014年10月6日	米9月雇用統計を終えて～経験則に照らせば利上げ?～
2014年10月3日	週末版(ECB理事会を終えて～需要不足と向き合うECB～)
2014年10月2日	短観9月調査に見る円安コストの陰
2014年10月1日	ECB理事会プレビュー～「量」を評価軸とする難しさ～
2014年9月29日	ドル高を阻むもの
2014年9月26日	週末版
2014年9月25日	安倍首相発言や最近の株高などについて
2014年9月24日	ドラギ総裁の欧州議会証言について～「量」の再強調～
2014年9月22日	ケアンズG20 財務相・中央銀行総裁会議を終えて
2014年9月19日	週末版(第1回ターゲット型長期流動性供給(TLTRO))について～厳しくなる「量」の追求路線～)
2014年9月18日	FOMC(9月16～17日)を終えて
2014年9月17日	ドル/円相場の水準感に係るヒント
2014年9月16日	スコットランド独立についての論点整理
2014年9月12日	週末版(必要なのは「円安前提の成長戦略」～心配しなくても円安は進む～)
2014年9月10日	官製相場となったユーロ相場への考察
2014年9月9日	円安を巡る財界要人発言を受けて～伸び悩む実質GDI～
2014年9月8日	本邦7月国際収支統計などについて
2014年9月5日	週末版(ECB理事会を終えて～官製相場の様相を呈してきたユーロ相場～)
2014年9月4日	9月レバトリの妥当性や今後の直接収益などについて
2014年9月3日	105円台を受けて～日米2年金利差からの推計値など～
2014年9月2日	再び迫る「市場のユーロ売りvs.SNBのユーロ買い」
2014年9月1日	ECB理事会プレビュー～最大の注目点は声明文?～
2014年8月29日	週末版
2014年8月27日	止まらない欧州金利の低下～財政が嫌なら介入のみ～
2014年8月26日	ドラギ総裁の「3本の矢」～驚きずくめのジャクソンホール講演～
2014年8月25日	イエレンFRB議長講演～「見たいように見る」相場～
2014年8月22日	週末版(ユーロ圏からの資金流出見られず～俗説に反するユーロ圏6月国際収支統計～)
2014年8月21日	FOMC議事要旨～「終わりの始まり」をどう考えるか～
2014年8月20日	本邦7月貿易収支などについて
2014年8月19日	最近のサービス収支動向～旅行収支は経常収支を支えるか～
2014年8月18日	ユーロショートカバーに備える地合い～3つの契機～
2014年8月15日	週末版(ユーロ圏4～6月期GDPなどを受けて～日本化議論は疑念を越え、予防的視点へ～)
2014年8月13日	本邦4～6月期GDP1次速報値などについて
2014年8月12日	「国際金融のジレンマ」がもたらす金融政策の通貨政策化
2014年8月11日	改めて認識する「放って置けば円安」シナリオ
2014年8月8日	ECB 理事会を終えて～量み掛けるような口先介入は焦りの表れ?～
2014年8月7日	ハードデータに及び始めたロシア・ウクライナ問題
2014年8月6日	ECB理事会プレビュー～「最良の地合い」で現状維持～
2014年8月5日	BIS国際与信統計における欧州とロシアの繋がりについて
2014年8月4日	ユーロ下落時のユーロ円化説の考え方～認識は変わらず～
2014年8月1日	週末版(ユーロ圏7月消費者物価指数(HICP)などを受けて～ECBとしては「早く結果が欲しい」状況～)
2014年7月30日	ドル建て日経平均株価から滲み出る過熱感
2014年7月28日	ターゲット型LTRO(TLTRO)の展望とユーロ相場について
2014年7月25日	週末版
2014年7月24日	本邦6月貿易収支について
2014年7月23日	米消費者物価指数(CPI)を受けて考える為替相場
2014年7月22日	格差が出始めたユーロ圏住宅価格～BIS年次報告に絡めて～
2014年7月18日	週末版(「事故的なイベント」は押し目の好機～狭いレンジでの処世術～)
2014年7月17日	『展望レポート』中間評価などについて
2014年7月15日	円相場は損益分岐点か?～『さくらレポート』などを受けて～
2014年7月14日	FRB、「今の利上げ」は「将来の利下げ」のため?
2014年7月11日	週末版(ポルトガルの銀行不安を受けて～金融不安は日本化懸念のダメ押し～)
2014年7月10日	巨額和解金騒動から派生する決済通貨の多様化論
2014年7月8日	国際収支や対内外証券投資などから得られる需給イメージ
2014年7月7日	「生活意識に関するアンケート調査」に見る日本経済の現状
2014年7月4日	週末版(ECB理事会を終えて～市場期待に苛立つドラギ総裁は日銀を思い返すべき～)
2014年7月2日	フィリップス曲線にみるユーロ圏の構造変化
2014年7月1日	ECB理事会プレビュー～QEを仄めかしつつ現状維持～
2014年6月27日	週末版(「動かない相場」は企業の想定通り?～プラザ合意以降で最小の月間レンジに～)
2014年6月26日	14年前半の終わりを前に～史上最小レンジが視野に～
2014年6月24日	強まった「デフレの足音」～ユーロ圏労働コストなどについて～
2014年6月23日	ユーロ圏貿易収支などについて～縮小均衡?～
2014年6月20日	週末版(実質金利からみる最近の為替相場～ユーロに買い安心感、円に売り安心感～)
2014年6月19日	FOMCを終えて～アップサイドリスクを考える時?～
2014年6月18日	ユーロシステムの流動性と欧米中銀のバランスシート比較